

「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」  
の実習教育の課題に関する比較研究  
——実習学生のアンケート調査から——

梅澤 嘉一郎\*・松原 征男\*\*

A Comparative Study of Problems to be Solved in Field Work Education  
under the Guidance of Social Work Practice and  
Psychiatric Social Work Practice  
From Questionnaire of Field Work Students both Social Work Practice and  
Psychiatric Social Work Practice

Kaichiro UMEZAWA, Isao MATSUBARA

要 旨

平成15年度から本大学においても社会福祉援助技術現場実習（以下、「SW実習」と略す）並びに精神保健福祉援助実習（以下、「PSW実習」と略す）が開始された。平成16年度までに、社会福祉援助技術現場実習が79名、精神保健福祉援助実習が29名、併せて108名の学生が実習を終え、平成17年度においては、社会福祉援助技術現場実習が36名、精神保健福祉援助実習が29名の計65名の学生が実習をおこなっている。<sup>1)</sup>

この現場実習は約1ヶ月の長期にわたり、利用者の人命はもとより権利擁護や人権への配慮も必要なだけに実習指導の徹底が求められている。

本研究は、平成16年度の「社会福祉援助技術現場実習」又は「精神保健福祉援助実習」を終了した段階でのアンケート結果から、両実習の比較研究は学会発表等ではこれからという状況にあることから、両実習の共通点と相違点とを比較検討し、問題点と課題を明らかにすることにより、両実習の事前指導課題を明確にし、今後の事前学習並びに事後学習の指導に活かすことを目的とするものである。

検討をおこなった結果、実習学生の増加に対する受け入れ施設までの通勤時間や週休日などの実習環境面では、受け入れ困難要因項目（以下、「実習環境要因」と略す）7項目の比較から、平均実習環境率は、SW実習が約6割に対して、PSW実習では約4割でPSW実習の方が受入

\*教授 社会福祉学

\*\*助教授 障害者福祉、施設福祉

環境低いことが明らかにされた。

実習指導面の実習指導環境要因項目（以下，[実習指導環境要因]と略す）14項目との比較では，実習指導環境は，両実習とも「指導環境率」は約6割で差が認められなかった。

しかし，実習指導環境は整っていても，必ずしも実習環境には繋がらないということも明らかにされた。

一方，実習施設での総合実習評価では，SW実習がPSW実習よりも高い結果であった<sup>2)</sup>

以上の結果を踏まえ，社会福祉士及び精神保健福祉士養成校協会の動きも踏まえながら実習指導内容の改善に向けて努力していく必要があることが本研究で明らかにされた。<sup>3)</sup>

キーワード：社会福祉援助技術現場実習，精神保健福祉援助実習，実習環境，実習指導環境

## はじめに

本学社会教育学科は，私立大学では教育学部は数少ないというメリットを生かし，21世紀の超高齢社会，メンタルヘルスの時代をも踏まえ，平成14年度よりカリキュラムを改訂し，社会教育主事，社会福祉主事，学芸員，図書館司書等の資格のほか，社会福祉士，精神保健福祉士の国家試験受験資格取得のため，平成15年度から本大学においてもSW実習並びにPSW実習が開始され，3年目に入った。

この現場実習は約1ヶ月の長期にわたり，利用者の人命はもとより権利擁護や人権への配慮も必要であり失敗は許されないだけに実習指導の徹底が強く求められている。

今回は，SW実習並びにPSW実習の実態を，実習終了学生のアンケート調査により実習環境と実習指導環境を比較検討し，の相違点を明らかにし今後の実習課題の一助としたい。

## 2. 研究目的

平成15年度の当初の実習においては，本学では初の現場実習であったため，実習施設の確保が精一杯という状況からの出発であり，実習時期も施設の空き状況にあわせざるをえなかったこと，必ずしも実習学生の実習種別の希望を踏まえた施設種別でなかったことが挙げられる。

また履習環境も整っておらず，事前学習も段階を追った履修は難しく，実習事前指導も実習時期が区々で足並みが揃わないという状況であった。

実習3年目を迎え，平成17年度からは，SW及びPSW双方の養成校協会にも加入し，対外

「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究的に本大学が養成校として認知され、また平成16年度においてはSW及びPSWの両国家試験に合格者が出たことも影響してか、実習教育にも弾みがつきつつあるといえる。

かかる状況から、平成17年度においては、事前指導での部外講師により、SW実習では、介護技術の実践時間を前年度より多くしたり、PSW実習では、精神障害者の理解を深めるために2回にわたり厚みを持たせたりの対応もおこなっている。まだまだその対応は、実習体制も含め不十分であることは否めない。

実習教育の成果につき、まだ養成校が両実習で二つに分かれていることもあり、両実習の比較検討の文献はまだ見当たらない状況である。

そこで、本研究では、両実習について、実習先の実習環境並びに実習指導環境の状況を実習学生のアンケート結果から比較検討することにより、事前指導課題を明確にし、今後の事前学習並びに事後学習の指導に活かすことを目的とするものである。

### 3. 研究対象と方法

SW及びPSW両実習を終了した学生に授業の際に配布し、後日、提出ということで下記のとおりアンケートを実施し、その結果を検討し分析する方式をとった。

#### (1) アンケート実施日及び実施対象

##### ア、SW実習

平成16年12月16日PSW実習の時間に配布し、1月12日までに、提出する方式をとった。21名回答/36名配布（内訳、社会教育学科4年生34人、心理学科4年生1名、生活文化学科1名）し、アンケート回収率は、58.3%であった。

アンケート協力者の実習先種別は、特別養護老人ホームが9名（42.8%）、老人デイサービス施設が2名（9.5%）、知的障害者更生施設が4名（19.0%）、知的障害者授産施設が3名（14.3%）、児童養護施設が1名、重症児施設が1名（7.2%）、社会福祉協議会が1名（7.2%）となっている。（表1、図1参照）

##### イ、PSW実習

平成16年12月20日PSW実習の補講時間に配布し、17年1月12日までに、提出する方式をとった。

9名回答/23名配布（内訳、社会教育学科4年生6人、心理学科4年生17名）で、アンケート回収率は、39.1%であった。

アンケート協力者の実習先種別は、精神科病院が3名(33.3%)、精神科クリニックが4名(44.4%)、精神障害者通所授産施設が1名(22.3%)となっている。

回収率が低調な理由として、実施日が、実習振り返りで、部外講師の講義があり、そのためその日の提出が困難で後日回収となり、4年生で、1月の国家試験や卒業試験なども控え、アンケート記載の時間確保が3年生が殆どのSW実習よりは難しかったものと思われる。(表1、図1参照)

表1 実習施設数・実習学生数の推移

区分	施設種別	平成15年度		平成16年度		平成17年度		16年度増減率		17年度増減率	
		施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数
SW	高齢者施設	14	14	10	15	8	8	△28.6	7.1	△20	△46.7
	障害児(者)施設	14	16	13	18	9	14	△7.1	12.5	△30.8	△22.2
	児童養護施設	2	4	5	5	7	8	150	25	40	60
	社会福祉協議会	0	0	2	2	6	6	—	—	200	200
	女性相談所	0	0	1	1	0	0	—	—	△100	△100
	児童相談所	3	3	1	1	0	0	△66.7	△66.7	△100	△100
	計	32	37	32	42	30	36	0	13.5	△6.3	△14.3
PSW	精神病院	4	4	4	10	6	12	0	150	50	20
	診療所	1	1	3	9	3	6	20	80	0	△33.3
	社会復帰施設	1	1	3	4	6	9	200	300	100	125
	保健所	0	0	0	0	1	1	—	—	—	—
	精神保健福祉センター	0	0	0	0	1	1	—	—	—	—
	計	6	6	10	23	17	29	66.7	283.3	70	26.1
合計	38	43	42	65	47	65	10.5	51.1	11.9	0	

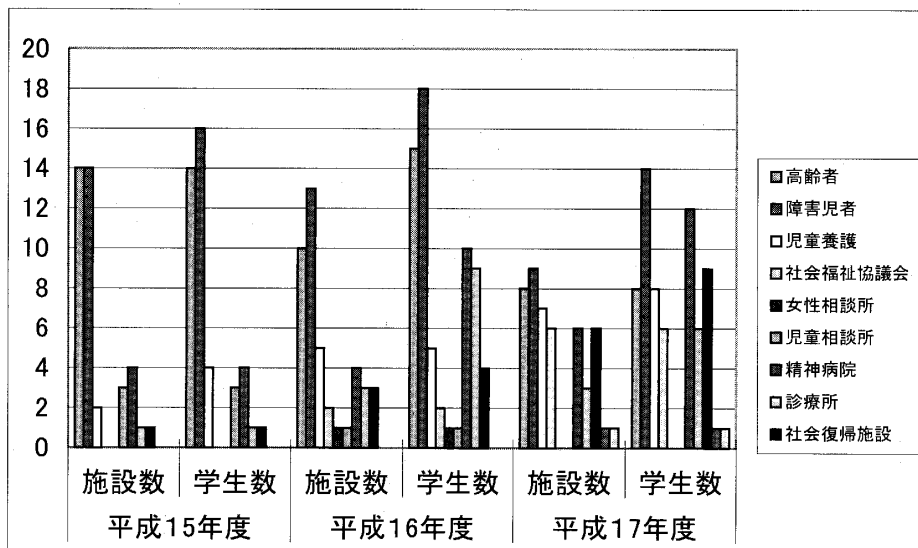


図1 実習施設数・実習学生数の推移

(2) アンケート項目等

両資格の実習の比較研究を可能にするため、PSW 実習では難しい「事例研究」や「帰校日」4)の有無のアンケート項目を除きほぼ同じ質問項目で実施した。

その内容については、別紙、「アンケート」様式のとおりである。

4. 結果

集計結果は、まず、SW 実習及び PSW 実習それぞれ集計を試み、次に、SW 実習及び PSW 実習につき比較するためにアンケート結果を一体化させた。その図表が別紙の結果表である。その状況については、図7から図35に示されている。

以下、実習環境及び実習指導環境に関連するアンケート、項目を中心に、その結果について述べたい。(表2、表3、図2、図3参照)

表2 社会福祉士及び精神保健福祉士実習受け入れ環境の比較

番号	受け入れ困難項目	SW	PSW	社会福祉士積算基礎	精神保健福祉士積算基礎
1	実習学生増加率	13.5	283	16年度と15年度の比較(%)	16年度と15年度との比較(%)
2	施設増加率	0	67		
3	通勤1時間以上の比率%	24	33	5人/21人 = 23.8%	3人/9人 = 33.3%
4	実習定期利用率(%)	29	67	6人/21人 = 28.5%	6人/9人 = 66.7%
5	8時間超過施設比率	9	3	勤務時間 = 8.75時間	勤務時間 = 8.25時間
6	週休1日のみ施設比率	33	44	7施設/21施設 = 33.3%	4施設/9施設 = 44.4%
7	実習指導者有各資格比率	67	33	SW 未配置率 14施設	PSW 未配置率 3施設
	平均比率	42	56		

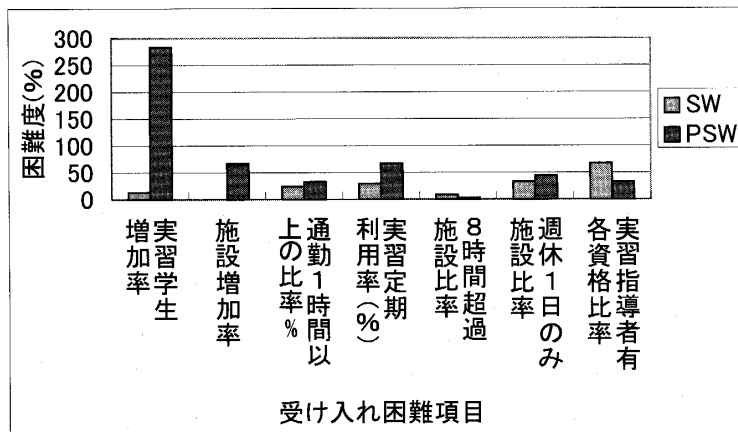


図2 実習受け入れ施設環境の比較

表3 実習受け入れにおける実習指導環境の比較

実習指導配慮項目	SW	PSW	社会福祉士積算項目	精神保健福祉士積算項目
実習生実習満足度	67	44	14 施設 / 21 施設 = 66.7%	4 施設 / 9 施設 = 44.4%
2人以上勤務施設比率	33	44	7 施設 / 21 施設 = 33.3%	4 施設 / 9 人 = 44.4%
オリエンテーション実施率	95	33	20 施設 / 21 施設 = 95.2%	3 施設 / 9 施設 = 33.3%
実習計画書確認比率	24	33	5 件 / 21 件 = 24%	3 件 / 9 件 = 33.3%
実習プログラム説明比率	57	44	12 件 / 21 件 = 57.1%	4 施設 / 9 施設 = 44.4%
実習希望取入れ比率	95	56	20 施設 / 21 施設 = 95.2%	5 施設 / 9 施設 = 58.6%
実習指導比率	100	89	全施設が実習指導体制	8 施設 / 9 施設 = 88.9%
毎日の指導体制比率	81	67	17 施設 / 21 施設 = 81.1%	6 施設 / 9 施設 = 66.7%
面談指導実施比率	24	78	5 施設 / 21 施設 = 23.8%	7 施設 / 9 施設 = 77.8%
専属実習指導体制比率	10	33	2 施設 / 21 施設 = 9.5%	3 施設 / 9 施設 = 33.3%
ソーシャルワーク指導比率	29	100	6 施設 / 21 施設 = 28.6%	全施設が該当
翌日日誌提出比率	91	78	19 施設 / 21 施設 = 90.5%	7 施設 / 9 施設 = 77.8%
日誌記入2時間未満比率	76	78	16 施設 / 21 施設 = 76.2%	7 施設 / 9 施設 = 77.8%
巡回三者面談比率	38	22	8 施設 / 21 施設 = 38.1%	2 施設 / 9 施設 = 22.2%
平均	59	57		

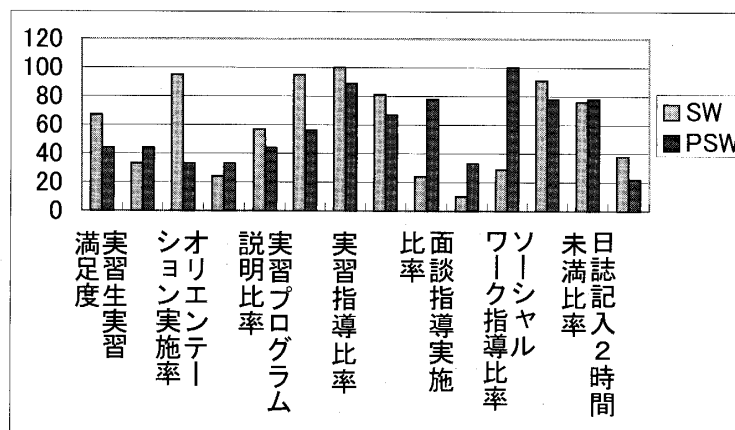


図3 実習指導環境の比較

(1) 実習環境関連アンケート項目

ア、通勤時間及び実習学割交通乗車券利用率

実習学生にとって、実習指導体制や実習したい実習種別もさることながら、まず、実習開始時間に間に合うよう通勤が可能かどうか先決条件となる。

この点に関してはSWとPSWとの実習で対象利用者の違いから、PSWでは、統合失調症などの利用者の服薬管理の徹底が十分でない場合を想定し、自宅から実習施設まで、距離的に遠くてもバス路線経路が同じ場合は、利用者と距離を置く観点から他施設に変更をよぎなくされた事例が、16年度に1件認められた。

「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

かかる理由や、実習先の確保がSW実習先よりも困難なため、通勤時間が長くなったり、あらたに実習学割交通乗車券（略して、実習定期券と以下呼ぶ）の購入が必要になる。

#### （ア）通勤時間

実習形態では、通勤率はSW実習が20名（95.2%）、PSWが8名（88.9%）でSW実習が6.3ポイント高い。（図11参照）

実習定期券利用率は、SW実習が21名中6名（28.6%）、PSWが9名中6名（66.7%）で、約2.3倍利用率が高い。SW実習先は、PSWと違い、近くて良いし、早出や遅番などの変則勤務の関係も種別によってはあり、通勤手段が自転車や車の送迎などであったり、通学定期券の利用で可能な場合もあり相違している。（図13参照）

通勤所時間についても、「1時間以内」がSW実習が、21名中16名（76.1%）、PSW実習が9名中6名（66.7%）とPSW実習が少なく、逆に、「通勤1時間以上」が、SW実習が5名で23.8%、PSWが3名が33%で多く、「1.5時間以上」が、SW実習には該当者なしであるが、PSW実習では1名いる。（図12参照）

以上から、通勤時間による実習環境は、実習困難率がSWが24%、PSWが33%であることから、実習環境率は、SWが76%、PSWが67%でPSW実習が9ポイント低い。

#### （イ）実習勤務時間

「9時から17時まで」の通常勤務は、PSW実習の55.6%（5施設／9施設）を占めるが、SW実習では、19%（4施設／21施設）と少ない。SW実習では、早朝勤務は8時から、遅番で18時45分までの勤務を余儀なくされている。

アンケート結果から試算すると、平均実習勤務時間は、SWが、8時間45分、PSWが8時間15分となる。

以上から、実習勤務時間による実習環境は、8時間超過施設比率が、SWが9%、PSWが3%となっていることから、実習環境率は、SWが91%、PSWが97%でPSW実習が6ポイント高い。

#### （ウ）週休2日制

実習施設は、1日の勤務時間のみならず、週休日も1日だけという施設もある。実習生にとって、平日は日誌記入などに追われ、通勤時間や勤務時間も長いことから体調を崩しやすい原因ともなるため、週1日はお休みをお願いしているのが実情である。

週休1日のみの施設比率が、SWが33%、PSWが44%であることから、実習環境率は、SWが67%、PSWが56%でSW実習が11ポイント高い。（図15参照）

#### （エ）SW/PSWの配置

実習指導者は、実習の性格上、SWもしくはPSWが望ましい。

専門職の未配置率は、SWが67%、PSWが33%であることから、実習環境率は、SWが33%、PSWが67%でPSW実習が34ポイント高い。(図8参照)

## (2) 実習指導環境アンケート項目

実習受け入れにともなう実習指導環境について、関連するアンケート項目を中心にその結果について述べたい。

実習環境では、実習受け入れ困難項目から実習環境率を算出したが、実習指導環境では、アンケート項目の「実習配慮項目」から、即、実習指導環境比率として示される。

(表2, 図2参照)

### (ア) 実習満足度

満足度は、SW実習が、66.7% (14施設/21施設)、PSW実習が44.7% (4施設/9施設)。また、不満足がPSW実習のみ22.2% (2施設/9施設)となっている。

満足な理由として、SW、PSWとも、共通して福祉に熱心で、利用者や職員が温かく、指導も丁寧で実習がとても楽しかったようだ。

他方、不満な理由は、PSWが不在であったり、実習指導者と息が合わなかったようだ。(図7参照)

### (イ) 二人以上勤務

アンケートでの学生の自由意見では、1人勤務より、2人以上の勤務のほうが「相談できるし、お互いに成長しあえる。」「他大学でも良いから、何人かと一緒がよい」としているが、実習先によっては、2人以上ではお互いに助け合って実習にならないとの趣旨や対応職員不足もあってか学生の要望とのミスマッチがある。

1日2人以上勤務施設は、SWが33.3%、PSWが44.4%であることから、実習指導環境率は、PSW実習が11.1ポイント高い。(図16参照)

### (ウ) オリエンテーション実施

SW実習が、95.2% (20施設/21施設)、PSW実習が33.3% (3施設/9施設)から、実習指導環境比率は、SW実習が約3倍高い。(図17参照)

### (エ) 実習計画書確認

SW実習が、23.8% (5施設/21件)、PSW実習が33.3% (3施設/9施設)から、実習指導環境率は、PSW実習が9.5ポイント高い。なお、オリエンテーション実施内容としては、両実習とも、「施設見学」が一番多いが、SW実習では、続いて、「実習指導者との顔合わせ」, 「実習中の心構え」が続いているが、PSW実習では、「実習中の心構え」, 「日誌提出方法」などと



「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

なっている。(図 18 参照)

(オ) 実習プログラム説明

SW 実習が、57.1% (12 件 / 21 件)、PSW 実習が 55.6% (5 施設 / 9 施設) から、実習指導環境比率は、ほぼ同じ比率となる。(図 18 参照)

(カ) 実習希望取り入れ

実習希望を確認し、それを取り入れていただいた実習施設の割合である。

SW 実習が、95.2% (20 施設 / 21 施設)、PSW 実習が 55.6% (5 施設 / 9 施設) から、実習指導環境比率は、SW 実習が 1.7 倍高い。(図 24 参照)

(キ) 実習指導

SW 実習が、100%、PSW 実習が 88.9% (8 施設 / 9 施設) から、実習指導環境比率は、SW 実習が約 11 ポイント高い。(図 25 参照)

(ク) 毎日の指導体制

SW 実習が、81.1% (17 施設 / 21 施設)、PSW 実習が 66.7% (6 施設 / 9 施設) から、実習指導環境比率は、SW 実習が 14.4 ポイント高い。(図 26 参照)

(ケ) 面談指導実施

SW 実習が、23.8% (5 施設 / 21 施設)、PSW 実習が 77.8% (7 施設 / 9 施設) から、実習指導環境比率は、同じ比率となる。(図 27 参照)

(コ) 専属実習指導体制

SW 実習が、9.5% (2 施設 / 21 施設)、PSW 実習が 77.8% (7 施設 / 9 施設) から、実習指導環境比率は、PSW 実習が約 3.3 倍高い。(図 28 参照)

(サ) ソシヤルワーク実習

SW 実習指導比率が、28.6% (6 施設 / 21 施設)、PSW 実習は 100% (9 施設 / 9 施設) から、実習指導環境比率は、PSW 実習が約 3.5 倍高い。(図 29 参照)

SW 実習では、ケアワークは不可欠であり、ケアワークの比率を、アンケート結果から試算すると平均 56.5% に達している。(図 32 参照)

(シ) 実習日誌

翌日日誌提出比率は、SW 実習が、90.5% (19 施設 / 21 施設)、PSW 実習が 77.8% (7 施設 / 9 施設)、実習指導環境比率は、SW 実習が 12.7 ポイント高い。(図 30 参照)

また、日誌記入 2 時間未満比率は、SW 実習が、76.2% (16 施設 / 21 施設)、PSW 実習が 77.8% (7 施設 / 9 施設) から、実習指導環境比率は、PSW 実習が 1.6 ポイント高い。(図 31 参照)

(ス) 巡回指導面談

巡回指導において三者面談を実施している実習施設は、実習学生への指導への熱意のあらわれでもある。実施率は、SW実習が、38.1% (8施設/21施設)、PSW実習が22.2% (2施設/9施設) から、実習指導環境比率は、SW実習が15.9ポイント高い。(図33参照)

(3) 実習課題の関心度の変化の状況

アンケート項目から、実習開始時点と終了時点での実習課題への関心度の変化は、両実習で、共通して、利用者理解、SW又はPSW業務、自己覚知の順に関心度が高かったが、実習終了後は、SW又はPSW業務は余り変化がなく、SWでは、利用者理解が9%減少しているが、逆に、PSWでは、11%増加している。他方、自己覚知は、SWが8%増加しているが、PSWは9%減少し、対照的である(図4、図19、図34、表4、図20、図21、図22、図35、図36、図37参照)

表4 実習開始時点と終了時点での実習課題の関心度の変化の状況

SW	実習課題	実習開始時	実習終了時	増減
SW	社会福祉士業務	32	32	0
SW	利用者理解	42	33	△9
SW	自己覚知	27	35	8
PSW	精神保健福祉士業務	31	29	△2
PSW	利用者理解	46	57	11
PSW	自己覚知	23	14	△9

【備考】1. 単位：% 上記3課題に対する構成比(%)の変化を示す。

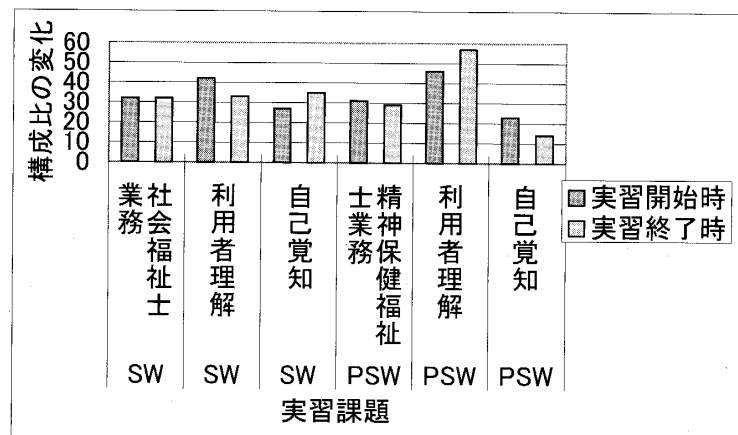


図4 実習課題の関心度の変化の状況

## 5. 考察と結論

### (1) 実習環境

結果で述べた、各実習環境要因比率に、実習学生増加率並びに実習施設増加率を加味した、7つの平均実習環境要因比率は、SW 実習が、42%、PSW が、56%と試算される。

従って、PSW 実習の方が、SW 実習よりも実習生受入れ環境としての平均実習環境率は、14ポイント低い状況にあると結論づけられる。(表2, 図2参照)

### (2) 実習指導環境

結果で述べた、各実習指導環境比率14の平均実習指導環境比率は、SW 実習が、59%、PSW が、57%と試算される。

従って、PSW 実習、SW 実習ともに殆ど差がないと結論づけられる。(表3, 図3参照)

### (3) 実習環境及び実習指導環境との関係等

実習環境及び実習指導環境との関係を行に配置し、SW 実習、PSW 実習毎の各実習環境率及び実習指導環境率を列に配置し、二元配置による分散分析の結果は、実習環境及び実習指導環境の行間変動は、 $F$  値 =  $3.335141 > F(0.95) = 2.16825$  から有意差があり、実習環境及び実習指導環境の間には差があることが明らかにされた。

一方、SW 実習、PSW 実習毎の各実習環境率及び実習指導環境率の列間変動は、 $F$  値 =  $1.637703 < F(0.95) = 4.380752$  から有意差がないことが明らかにされた。

### (4) 総合実習環境

上記、結果から、SW 実習と PSW 実習については、実習指導体制上では、差がみとめられなかったものの、実習環境と実習指導環境とは差が認められ、実習指導環境は整っていても、必ずしも実習環境には繋がらないということが明らかにされた。

また、実習環境面では、PSWの方が厳しく、今後の実習教育面での課題に関わる問題であることが、この研究で明らかにされた。

### (5) 学生からの要望事項と今後の実習教育の課題

アンケートの最後に、学生からの要望を記していただいた。

SW, 実習では、すぐに役立つ具体的な介護技術、日誌の書き方、実習先を早めに決定し、

事前学習時間を十分にとってから実習に行くべきではとの要望がなされている。

PSW 実習関連では、実習環境として、実習プログラムのある施設での実習。もっと早い時期から実践的な役立つ授業。実習先の事前見学の実施。実習に行く準備期間をきちんととって欲しい等である。かかる要望については、平成17年度実習から、日誌の書き方や、介護技術の習得など具体的に実施されている事項もある。実習報告書についても、16年度は、実習授業終了後に学生有志の手で完成を見、現在の実習生にも役立てていただいている。そして、17年度は、12月の実習報告会に間に合わせられるよう作成がなされた。

本研究を契機に実習教育の更なる充実を願ってやまない。

### 注

- 1) 表1及び図1を参照。平成16年度の対前年度増加率をみると、実習学生並びに実習施設ともPSW実習がSW実習を上回っている。

すなわち、SW実習では、実習施設数は変化がないが実習学生数は、13.5%増加しているが、PSW実習では、実習学生が283.3%、実習施設が66.7%増加している。

ちなみに平成17年度の対前年度増加率は、SW実習は、実習学生及び実習施設は、それぞれ14.3%、6.3%と減少している。

それに対し、PSW実習では、実習学生が26%、実習施設が70%増加している。

平成16年度の場合、実習学生数/実習施設数は、SW実習が1.2人に対して、PSW実習は1.7人である。PSW実習がSW実習並みの1.2人になるには、PSW実習はあと7施設の24施設確保が必要であり、現状ではPSWの実習施設の実習指導者の負担が4割程度多いと試算される。

- 2) 実習施設の評価点は、表5、図5、図6のとおりである。

実習生全員の総合点でみると、SW実習が85点であるのに対し、PSW実習は72点で13点低くなっている。児童養護施設実習が92点に対し、社会復帰施設の実習は67点と25点の開きがある。

SW実習及びPSW実習評価の内訳についても、「基礎知識の理解」、「利用者理解」、「実習態度」ともに、PSW実習が下回っている。

16年度のPSW実習生で、4年生でPSW実習関連科目履修中の学生は、23名中10名（構成率は43%）となっており、履修科目は、延べて19科目（共通科目が5科目、専門科目が14科目）。10名の内訳は、1科目が5名、2科目が3名、3科目が1名、6科目が1名（編入生）となっている。

実習の中間振り返りを大学の実習授業に戻りおこなう機会を与えるために、大学側が実習施設の理解が得られた段階で実施する実習の一形態が帰校日である。かかる機会が認められれば、帰校日は実習日としてカウントされる。PSW養成校協会の調べでは、実施率は、まだ1割程度である。表6を参照。

表5 実習先の評価項目別実習評価の比較

評価項目	SW 全体	高齢者施設	障害児者施設	児童養護施設	PSW 全体	病院	診療所	社会復帰施設
基礎知識の理解	74	79	69	75	68	57	80	67
利用者理解	81	79	83	83	72	77	73	56
実習態度	89	83	90	100	75	77	77	78
総合	85	81	88	92	72	73	80	67
学生数	34	14	16	4	23	10	9	4

【備考】 1. SW は、平成 15 年度の実習先の評価を示す。実習先の評価は、「A」、「B」、「C」、評価につき、各、3 点、2 点、1 点と加算した総得点を全部「A」をとった場合の割合 (%) で示す。PSW については、平成 16 年度の実習先の評価を示す。

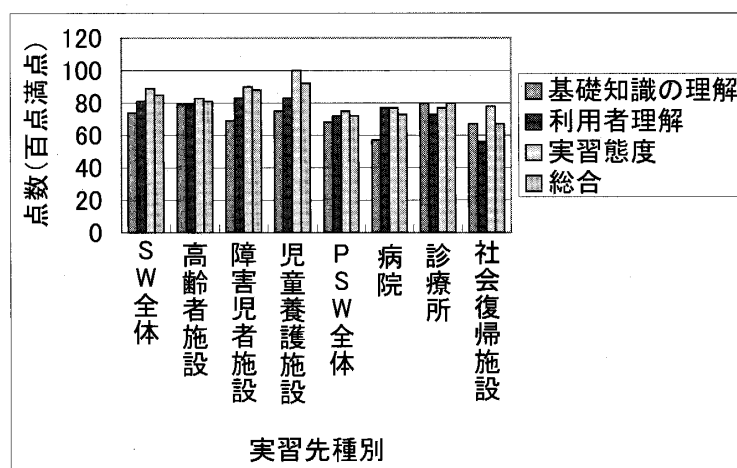


図5 評価項目別実習評価の比較

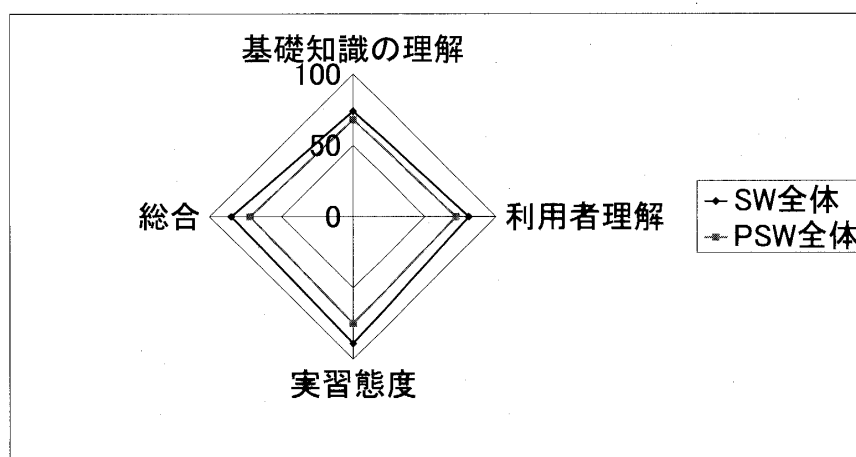


図6 実習評価のSWとPSWの比較

梅澤 嘉一郎・松原 征男

表6 精神保健福祉援助実習体制の状況

### 主な参考文献

1. 日本社会福祉士会『社会福祉実習担当者養成セミナー』, 2004年3月, 52ページ。
2. 大西敏浩他『社会福祉援助現実習の課題』(四天王寺国際仏教大学), 日本社会福祉学会第52回大会報告集, 2004年10月。135ページ。
3. 河村順子『精神保健福祉現場実習に関する研究』(川崎医療福祉大学), 日本社会福祉学会第53回大会報告集, 2005年10月。654ページ。
4. 茶屋道拓哉『実習における精神保健福祉士協会と養成校の連携について』(九州看護福祉大学), 日本精神保健福祉学会第4回大会報告集, 2004年6月。73ページ。

## 社会福祉援助技術現場実習並びに精神保健援助実習アンケート結果からの比較

川村学園女子大学4年次・3年次生（平成16年度）

### 1. 実習先の状況

#### (2) 満足度

項目	満足	普通	不満	特になし	回答なし
SW 学生数	14	0	0	2	5
PSW ヶ	4	2	2	0	1

#### 【備考】

#### 1. SW 満足の理由＝

- ①福祉に熱心な施設だった 1名。
- ②職員が親切で快く実習生を受け入れてくれた。
- ③利用者と接することができ自立を見守ることができた。1名。
- ④知的障害について考える良いきっかけとなることができたから。1名
- ⑤とても実習しやすく、丁寧に指導していただいた。1名
- ⑥利用者や職員が温かかった。
- ⑦職員や実習生の方にも親切にいただいた。1名
- ⑧様々な部署を見るこできた。1名。
- ⑨授業では知ることのできない体験ができた。1名。

#### 2. PSW 満足の理由＝①良い病院だった。 ②実習がとても楽しかった。③格安で宿泊して実習ができた。

#### 3. PSW 不満の理由＝①実習指導者といき合わず。②PSW が不在のため。

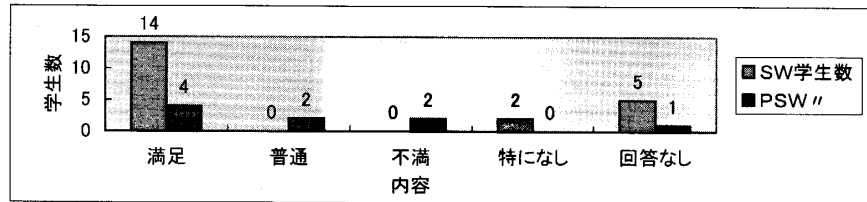


図7 満足度の比較

#### (3) 実習指導者職種

職種	SW 又は PSW	社会福祉主事又は CP	その他
SW	7	2	12
PSW	6	2	1

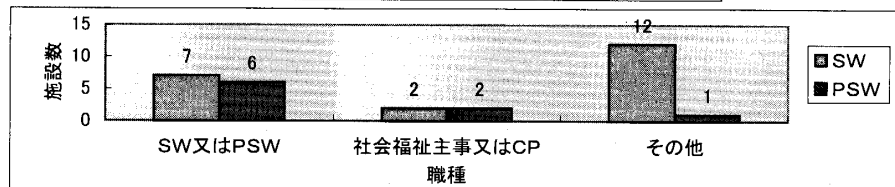


図8 実習指導者の職種の比較

### 2. 実習方式など

#### (1) 実習方式

実習方式	一括	分割
SW	18	3
PSW	8	1

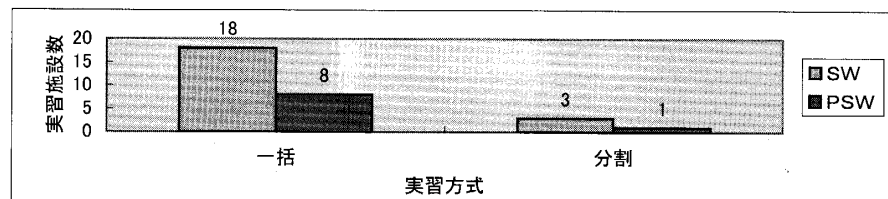


図9 実習方式の比較



「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

(2) 実習時期

事項	満足	ふつう	不満
SW	8	10	3
PSW	2	5	1

【備考】 SW 不満の理由 = ①実習準備ができていないのに始まってしまった。2人  
②もっと長く学びたかった。

PSW 不満の理由 = 卒論提出が間近い。

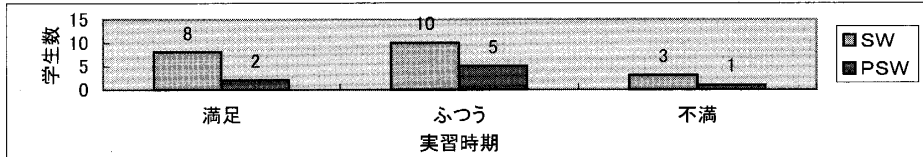


図 10 実習時期の比較

(3) 実習形態

形態	通勤	宿泊
SW	20	1
PSW	8	1

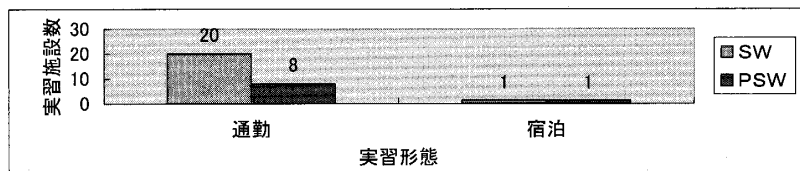


図 11 実習形態の比較

(4) 通勤所要時間

時間	1時間以内	1時間～1.5時間	1.5時間以上
SW	16	5	0
PSW	6	2	1

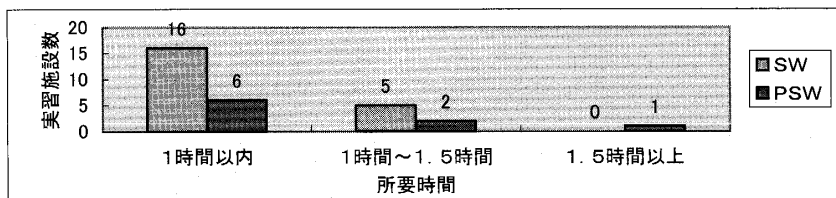


図 12 通勤所要時間の比較

(5) 実習定期利用

区分	有	無
SW	6	15
PSW	6	3

【備考】 1, SW「無」の理由 ①期限内に申し込めず。3人  
②, 通学定期で可。3人  
③回数券で。2人  
④車, 自転車などで。5人  
2, PSW「無」の理由 ①実習時期が早かった  
②締切日を教えていただけなかった。

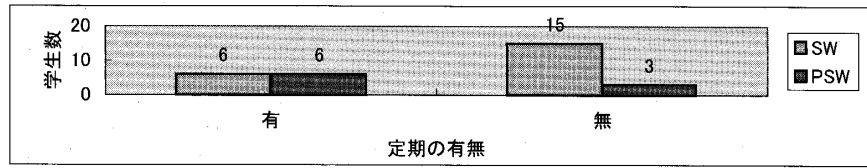


図13 実習定期利用状況

(6) 勤務時間

区分	8時～5時45分	8時30分～5時30分	8時40分～5時10分	9時～5時	9時15分～6時45分	9時30分～18時30分	9時～5時半
SW	2	12	1	4	1	1	0
PSW	0	0	3	5	0	0	1

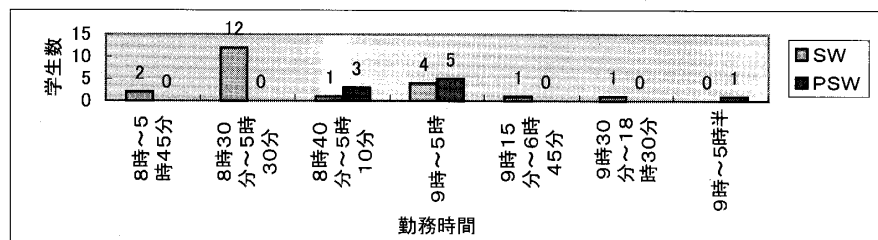


図14 勤務時間の比較

(7) 休務日

区分	土・日・祝日	日曜日	土曜日	日曜日・平日1日	土・日	不規則
SW	1	4	3	1	7	5
PSW	4	3	1	1	0	0

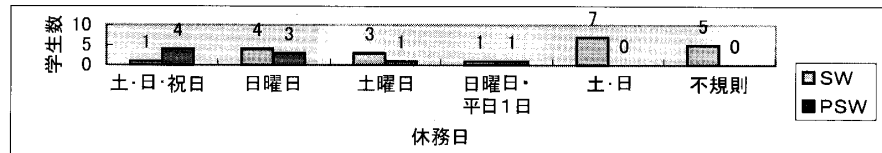


図15 休務日の比較

(8) 実習日の川村学園女子大学学生数

区分	1人	2人	3人
SW	14	3	4
PSW	5	3	1

【備考】 意見=①他大学でもよいから何人かと一緒にが良い。  
相談もできるし、お互いに成長しあえる。

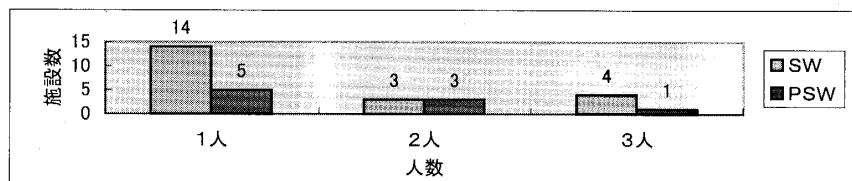


図16 実習日の本学学生数

「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

3. 事前オリエンテーション実施状況

区分	有	無
SW	20	1
PSW	6	3

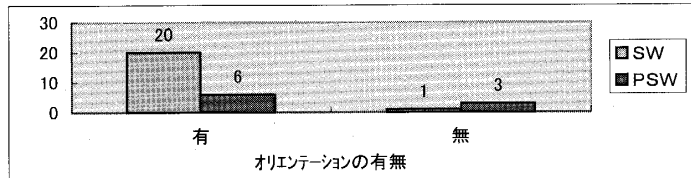


図17 事前オリエンテーション実施状況の比較

(1) オリエンテーションの内容

内容	施設見学	実習指導者との顔合わせ	実習計画書の確認	実習中の心構え	実習プログラムの説明	出勤管理説明	日誌提出方法	細菌検査書等
SW	20	15	5	14	12	10	13	15
PSW	6	4	3	5	4	5	6	4

【備考】 1. 複数回答

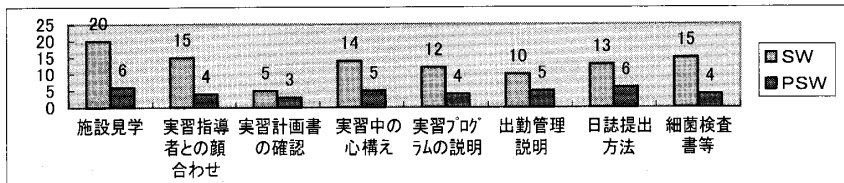


図18 オリエンテーション内容の比較

4. 実習の第一目標

(1) 目標 (大区分)

内容	医療・福祉施設現状	SW・PSWの業務	当事者理解	自己覚知
SW	11	13	17	11
PSW	5	4	6	3

【備考】 1. 複数回答

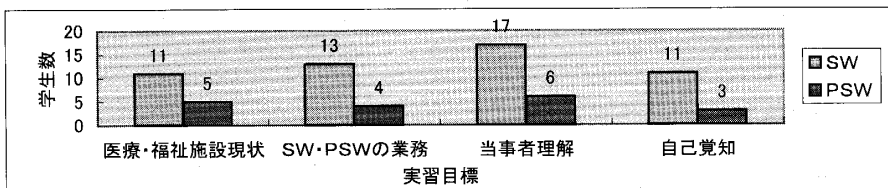


図19 自習の第一目標の比較

ア、「医療・福祉施設の現状」の内容

内容	医療・福祉理解	施設・機関役割機能	社会資源
SW	2	2	1
PSW	2	2	1

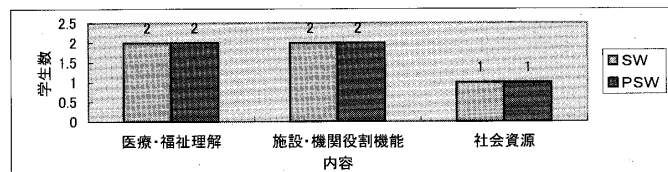


図20 医療・施設の現状の比較

イ、「社会社士・精神保健福祉士の業務」の内容

内容	援助技術	チームアプローチなど	人権擁護等	記入なし
SW	8	5	0	8
PSW	2	1	1	0

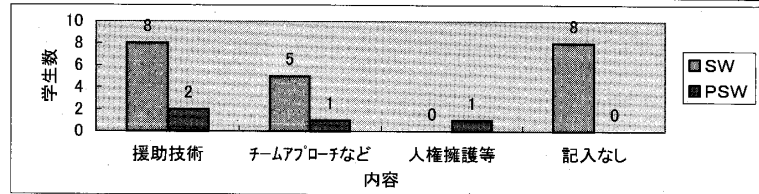


図 21 SW・PSW の業務の内容の比較

ウ、「利用者等の理解」の内容

内容	受容	コミュニケーション	家族との連携	生活者理解	記入なし
SW	0	16	0	0	5
PSW	4	0	0	5	0

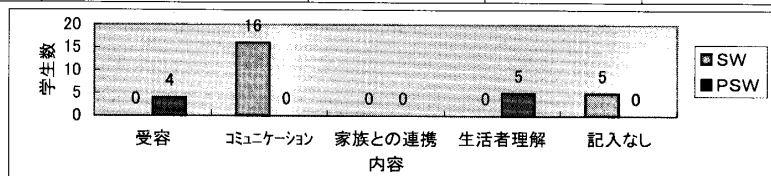


図 22 「利用者」の理解の内容の比較

5. 実習指導者について

(1) 実習目的・内容に関する希望確認

項目	有	無	記入なし
SW	16	3	2
SW (%)	76	14	10
PSW	6	3	0
PSW (%)	67	33	0

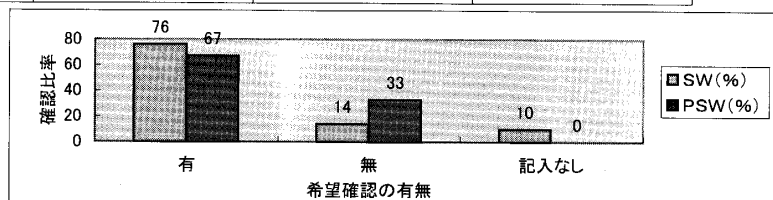


図 23 実習目的・内容に関する希望確認の比較

(2) 希望の取り入れ

項目	有	無	不明
SW	20	0	1
SW (%)	95	0	5
PSW	5	2	2
PSW (%)	56	22	22

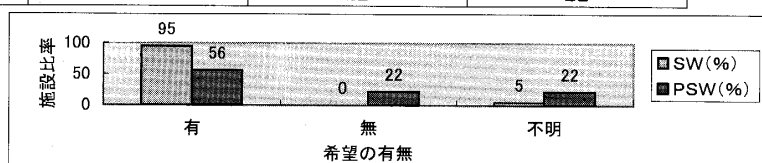


図 24 希望の取り入れ状況の比較

「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

(3) 実習指導の有無

項目	有	無
SW	21	0
SW (%)	100	0
PSW	8	1
PSW (%)	89	11

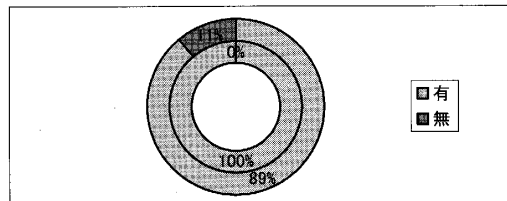


図 25 実習指導濃霧の状況

ア. 「有」の場合の頻度

項目	毎日	週に1回	週に5回	実習中2～3回	回答なし
SW	17	1	0	3	0
SW (%)	81	5	0	14	0
PSW	6	1	1	0	1
PSW (%)	67	11	11	0	11

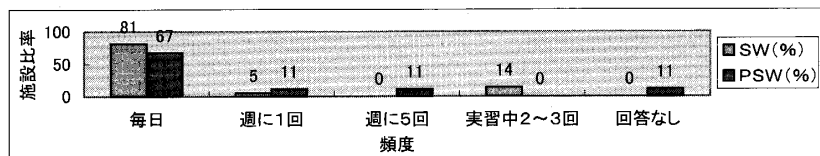


図 26 実習指導頻度の比較

イ. 実習指導方式

項目	面談	日誌でのコメント	面談と日誌	その場で等
SW	4	12	1	4
SW (%)	19	57	5	19
PSW	3	2	3	1
PSW (%)	33	22	33	12

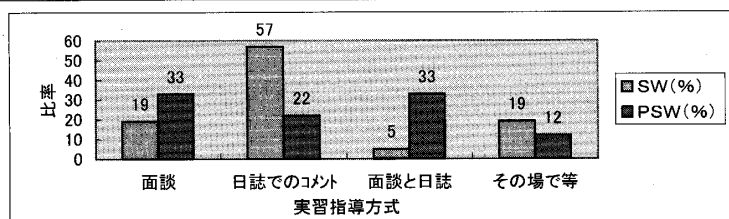


図 27 実習指導方式の比較

ウ. 実習指導者について

項目	全期間同じ SW・PSW	当日担当 SW・PSW	SW・PSW 外の S 職種	その他	記入なし
SW	2	1	14	3	1
SW (%)	10	5	60	15	5
PSW	3	1	5	0	0
PSW (%)	33	11	56	0	0

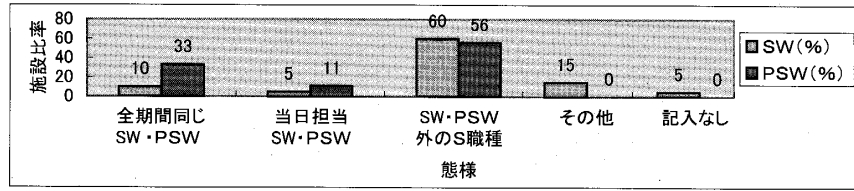


図 28 実習指導者の比較

エ. 指導における中心的内容

項目	介護技術	利用者本位の視点	支援方法	その他
SW	5	4	2	10
SW (%)	24	19	9	48
PSW	0	4	1	4
PSW (%)	0	44	12	44

- 【備考】 SW 内容：①コミュニケーションのとり方②相談員として重要なこと。  
 ③その日の疑問点④個別性の理解⑤地域生活のあり方⑥子どもの対応の仕方  
 PSW 内容 ①メンバーとの関わりについて、PSWとして必要なこと全般  
 ②当事者と接すること。親御さんと話をすること。  
 ③メンバーとの距離について④利用者との接し方

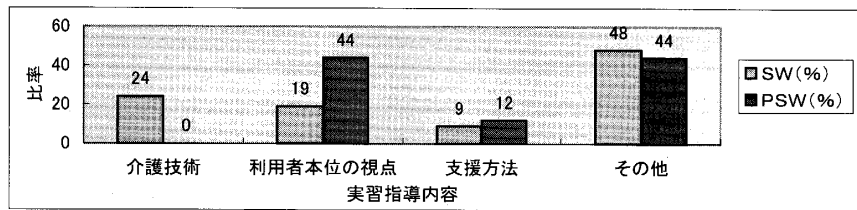


図 29 実習指導での中心的内容の比較

オ. 実習日誌の提出方法

項目	その日に提出	翌日に提出
SW	2	19
SW (%)	6	94
PSW	2	7
PSW (%)	22	78

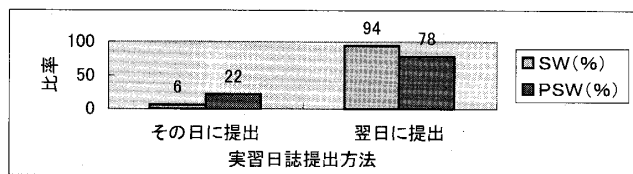


図 30 実習日誌の提出方法の比較

カ. 実習日誌の記入時間

項目	30分以内	1時間程度	1.5時間程度	2時間	2時間以上
SW	2	6	8	2	3
SW (%)	9	30	40	9	12
PSW	0	4	3	1	1
PSW (%)		44	34	11	11

「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

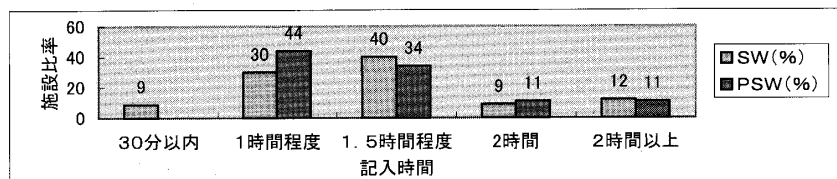


図 31 実習日誌の記入時間の比較

キ、SWの実習内容

ケアワークの事例

項目	生活全般の介護	掃除・洗濯など	送迎等
件数	7	4	2

ソーシャルワークの事例

項目	インテーク訪問	作業支援	イベントの準備	地域生活支援等
件数	1	1	1	7

ク、SW事例研究の有無

項目	有	無
件数	7	14

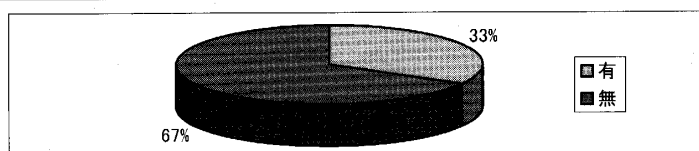


図 32 事例研究の有無

ケ、SW事例研究「無」の理由

項目	利用者との関わり無し	時間がなかった	指示がなかった
件数	4	4	1

6. 大学の巡回指導について

(1) 指導方法

項目	三者面談方式	教員との面談	その他
件数	8	8	5

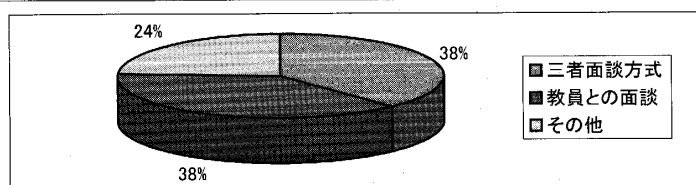


図 33 大学の巡回指導について

(2) 巡回担当教員について

項目	実習担当でよい	ゼミ担当で	その他
SW	8	8	4
PSW	9	0	0

- 【備考】 SW 1. 一度も指導していただいたことのない先生だと相談しにくい。  
 2. 先生がみえると凄く安心するので、もう1回くらいあってもよかった。  
 PSW 1. 誰が担当するのかしっかり定めて欲しい。

7. 実習終了時点での関心事項

事項	SW・PSWの業務	利用者を知る	自己覚知	医療・保健等の現状	その他
SW	19	20	21	0	1
SW (%)	31	33	34	0	2
PSW	2	4	1	2	0
PSW (%)	22	44	12	22	0

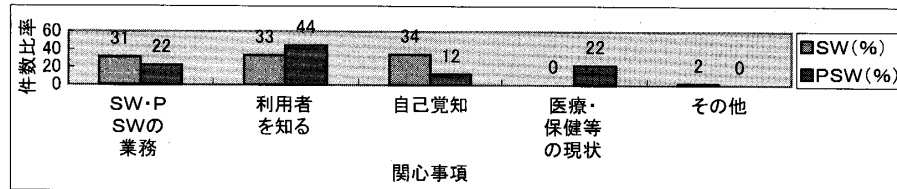


図34 実習終了時点での関心事項の比較

(1) 社会福祉士の業務の内容

事項	援助技術	チームアプローチや地域連携	人権擁護など
SW	11	9	3
SW (%)	48	39	13
PSW	4	4	1
PSW (%)	44	44	12

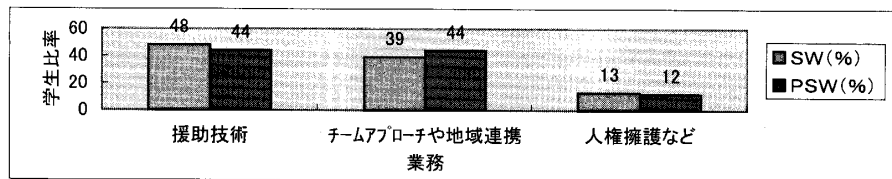


図35 SW・PSWの業務の比較

(2) 利用者についての内容

事項	受容	コミュニケーション	家族等との連携	生活者としての理解
SW	6	13	4	1
SW (%)	25	54	17	4
PSW	6	0	2	1
PSW (%)	67	0	22	11

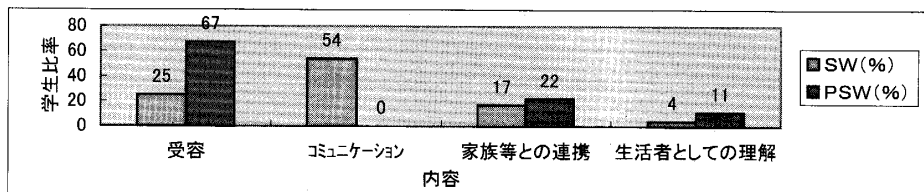


図36 利用者についての内容の比較

(3) 自分のことを知るの内容

事項	自己覚知	自己の適性を知る	記入なし
SW	11	8	0
SW (%)	58	42	0
PSW	4	2	3
PSW (%)	44	22	34



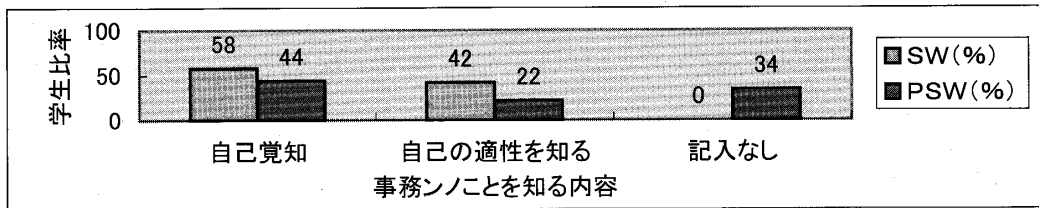


図 37 自分のことを知る内容の比較

8. 要望

(1) SW	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習に行く前に実技等の内容のある授業を。2年次に行く授業ではないでしょうか。</li> <li>2. 実習に関する情報を実習に行く前に欲しかった。</li> <li>3. もっと実習を取り入れた授業をして欲しい。2名</li> <li>4. 日誌の書き方を事前にもっと詳しく指導して欲しい。2名</li> <li>5. 教職課程のように、事前を2年の後期、事後を3年の前期にしてみてもいい。</li> <li>6. 実習先を早く決定して、3年生の頃から事前に勉強してからの実習がよいと思った。</li> <li>7. もう少し早い時期から、もっと具体的に役立つ内容の授業をして欲しかった。</li> <li>8. よくわからないまま実習に行ってしまった感じだった。実習後の授業が何をしたいのかよくわからない。</li> <li>9. 授業を開始してから実習に行くまでの期間が短いので、2年の時にこの授業があると良い。</li> <li>10. 講義の仕方を、もっと実践的なものについて指導していただかないと初めていく実習なので不安で仕方ありません。</li> <li>11. 実演を多く入れた援助技術をもっと取り入れた授業に。</li> </ol>
(2) PSW	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習プログラムのある施設での実習を希望。</li> <li>2. もっとしっかり実習体制を樹立して欲しい。</li> <li>3. 実習準備期間をとって欲しい。</li> <li>4. 何箇所かで実習生への事前見学をしたかった。</li> <li>5. 事前訪問をおこなって欲しかった。</li> <li>6. 実習先を早く決定して、3年生の頃から事前に勉強してからの実習が良いと思った。</li> </ol>

9. 社会福祉士・精神保健福祉士業務で最も重要なことを一言で。

(1) SW	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者さんの心や現場を理解していること。</li> <li>2. 連携。コミュニケーション。</li> <li>3. 家族や機関との連携とコミュニケーション能力。</li> <li>4. 社会資源の知識とコミュニケーション能力。</li> <li>5. 人を思いやる心。 2名</li> <li>6. 利用者の人生を知る。</li> <li>7. どれだけ利用者を受容し、利用者の立場になるか。</li> <li>8. いくつかの視点で考えること。</li> <li>9. 利用者が主体であるということ。</li> <li>10. 相手を思いやる心。</li> <li>11. その人にあった支援をすること。</li> <li>12. 個別性の理解。</li> <li>13. 知識と包容力。</li> <li>14. 自分に置き換えて介助すること。</li> <li>15. 常に利用者の状態をしっておくこと。</li> </ol>
(2) PSW	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受容 2名</li> <li>2. 広い視野で考えられること。</li> <li>3. 自分を知ること。</li> <li>4. コミュニケーション</li> <li>5. 知識と経験の照らし合わせ。</li> <li>6. 言葉や態度を最大限に使うこと。</li> <li>7. 当事者のニーズを知ること。</li> <li>8. その人のことを考えた会話ができること。</li> </ol>

梅澤 嘉一郎・松原 征男

平成 16 年度 社会福祉援助技術現場実習

平成 16 年度 **社会福祉援助技術現場実習**  
**に関するアンケート**

実習お疲れ様でした。来年度の参考にしたいので、ご協力を御願います。

【記入要領】 該当するものにすべて○で囲んで下さい。括弧内は自由にご記入下さい。

2004 年 12 月 15 日

川村学園女子大学 教育学部 社会教育学科

【提出締め切りと提出先】 2005 年 1 月 12 日 実習指導授業最終日に  
提出下さい。その日提出できない場合は、  
社会教育学科 梅澤研究室 (6 階) まで  
(不在の場合は、ドアの袋に投函下さい)

## アンケート

1. あなたの実習先を教えてください。

体験された種別全部を○で囲んでください。

①特別養護老人ホーム ②老人デイサービス ③知的障害者更生施設 ④知的障害者授産施設 (入所・通所) ⑤児童養護施設 ⑥児童療育施設 ⑦社会福祉協議会 ⑧実施機関 (児童相談所, 女性相談センター, 福祉事務所, その他 ( ) ) ⑩その他 ( )

(1) 実習先設置主体 ( 公立 ・ 公立民营 ・ 民营 )

(2) 実習先の満足度 ( 満足 ・ 特になし ・ 不満 )

その理由 ( )

(3) 実習先の実習指導者について

( 社会福祉士 ・ 社会福祉主事 ・ その他職種 )

ア, その他職種の場合はその職種名 ( )

2. 実習方式と時期及び通勤・宿泊の別について

(1) 実習方式 ( 一括 ・ 分割 )

(2) 実習時期 ( 満足 ・ 普通 ・ 不満 )

ア, 不満の場合, その理由 ( )

(3) 通勤・宿泊別 ( 通勤 ・ 宿泊 )

(4) 通勤所要時間 ( 1 時間以内 ・ 1 時間～1.5 時間 ・ 1.5 時間以上 )

- (5) 実習定期利用の有無 ( 有 ・ 無 )  
ア, 利用「無」の場合は, その理由。  
( )
- (6) 勤務時間について ( 時 分～ 時 分まで)
- (7) 休務曜日は ( 土曜日 ・ 日曜日 ・ 祝日 ・ 平日 曜日 )
- (8) 帰校日について ( あり ・ なし )  
ア, 「あり」の場合, 実習日へのカウウント ( あり ・ なし )  
イ, 帰校日について, ご意見がありましたら。  
( )
- (9) あなたの实習期間中における川村学園女子大学実習学生数  
( 1人 ・ 2人 ・ 3人 )  
ア, 実習学生数について, ご意見がありましたら。  
( )

3, 事前オリエンテーション実施の有無について

- ( 有 ・ 無 )  
ア, 実施内容について (該当項目全部を○で囲む)  
①施設見学 ②実習指導者との顔合わせ ③実習計画書の確認 ④実習中の心構え  
⑤実習プログラムの説明 ⑥出勤管理の説明 ⑦実習日誌の提出方法の説明 ⑧  
健康診断書・細菌検査書等の提出  
⑨その他 ( )

4, あなたの実習の第I目標は (一つだけ選んで下さい)

- ①福祉施設の現状について知る。  
( a, 施設・機関の理解 b, 施設・機関の役割や機能 c, 施設を取り巻く社会資源について  
d, その他 ( )
- ②社会福祉士の業務について知る。  
( a, 援助技術 b, チームアプローチや地域連携 c, 人権擁護  
d, その他 ( )
- ③利用者等の理解を深める (利用者 ・ 家族 )  
( a, 利用者の受容 b, 利用者とのコミュニケーション c, 利用者の家族との連携  
d, 生活者としての理解等)
- ④自分のことを知る  
( a, 自己覚知 b, 自己の適性を知る  
c, その他 ( )
- ⑤その他 ( )

5. 実習指導者について

① 実習の目的・内容に関する希望を確認してもらえましたか。

( はい ・ いいえ )

② その希望は取り入れてもらえましたか

( はい ・ いいえ )

③ 実習指導はありましたか

( はい ・ いいえ )

ア、「はい」の場合、その頻度は

( a, 毎日 b, 週に 回, c, 実習期間中 日)

④ 実習指導方式は

( a, 面談 b, 実習日誌のコメント欄で c, その他 )

⑤ 実習指導者について

( a, 全期間同じ社会福祉士 b, 当日のプログラム担当の社会福祉士 c, 社会福祉士  
以外の職種の職員 d, その他)

ア、その他の場合 ( )

⑥ 指導における中心的な内容は何でしたか

具体的に

( )

⑦ 実習日誌の提出方法について

( a, その日に提出 b, 翌日に提出 c, 数日まとめて  
d, その他 ( )

⑧ 実習日誌の1日分の記入時間は

( a, 30分程度 b, 1時間程度 c, 1.5時間程度 d, 2時間程度 e, 2時間以上)

6. 実習内容について

① 主な内容は何でしたか。

( )

② 上記、内容につき、ソーシャルワークと思われる内容の前に○を、ケアワークと思われ  
る内容の前に●を付して下さい。

③ ソーシャルワークとケアワークとの関係について

ご意見がありましたら

( )

④ 事例研究の有無 ( 有 ・ 無 )

・「有」の場合、事例の内容等

( )

「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

・「無」の場合、出来なかった理由等

( )

7. 大学からの巡回指導について

⑨指導方法について

( a, 施設実習指導者との3者面談方式 b, 大学担当教員との面談方式 c, その他)

⑩大学巡回教員について ( a, 実習担当教員 b, ゼミ担当教員 c, その他 )

ご意見がありましたら

( )

8. 実習終了時点で、何に関心を持つようになりましたか。

①社会福祉士の業務について知る。

( a, 援助技術 b, チームアプローチや地域連携 c, 人権擁護等)

②利用者について知る (利用者 ・ 家族 )

( a, 利用者の受容 b, 利用者とのコミュニケーション c, 利用者の家族との連携 d, 生活者としての理解等 )

③自分のことを知る

( a, 自己覚知 b, 自己の適性を知る

c, その他 ( )

④その他

9. 大学での「社会福祉援助技術現場実習指導」等への要望がありましたら。

10. 社会福祉士の業務で最も重要なものは何だと感じましたか。

なるべく、一言で書いて下さい。

( )

—ご協力有難うございました。—

梅澤 嘉一郎・松原 征男

平成16年度 精神保健福祉援助実習

平成16年度 **精神保健福祉援助実習**  
**に関するアンケート**

実習お疲れ様でした。来年度の参考にしたいので、ご協力を御願います。

【記入要領】 該当するものにすべて○で囲んで下さい。括弧内は自由にご記入下さい。

2004年12月15日

川村学園女子大学 教育学部 社会教育学科

【提出締め切りと提出先】 2005年1月12日 実習指導授業最終日に提出下さい。その日提出できない場合は、社会教育学科 梅澤研究室（6階）まで（不在の場合は、ドアの袋に投函下さい）

## アンケート

1. あなたの実習先を教えてください。

体験された種別全部を○で囲んでください。

①精神科病院 ②総合病院精神科 ③精神科クリニック・精神科デイケア ④生活訓練施設（援護寮） ⑤福祉ホーム ⑥授産施設 ⑦地域生活支援センター ⑧精神保健福祉センター ⑨保健所 ⑩その他

( )

\*実習先設置主体（ 公立 ・ 公立民営 ・ 民営 ）

(1) 実習先の満足度（ 満足 ・ 特になし ・ 不満 ）

その理由 ( )

(2) 実習先の実習指導者について

（ 精神保健福祉士 ・ その他職種 ）

ア、その他職種の場合はその職種名 ( )

2. 実習方式と時期及び通勤・宿泊の別について

(1) 実習方式（ 一括 ・ 分割 ）

(2) 実習時期（ 満足 ・ 普通 ・ 不満 ）

ア、不満の場合、その理由 ( )

(3) 通勤・宿泊別（ 通勤 ・ 宿泊 ）

(4) 通勤所要時間（ 1時間以内 ・ 1時間～1.5時間 ・ 1.5時間以上 ）

「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

(5) 実習定期利用の有無 ( 有 ・ 無 )

ア, 利用「無」の場合は, その理由。

( )

(6) 勤務時間について ( 時 分 ~ 時 分まで)

(7) 休務曜日は ( 土曜日 ・ 日曜日 ・ 祝日 ・ 平日 曜日)

(8) あなたの实習期間中における川村学園女子大学実習学生数

( 1人 ・ 2人 ・ 3人 )

ア, 実習学生数について, ご意見がありましたら。

( )

3, 事前オリエンテーション実施の有無について

( 有 ・ 無 )

ア, 実施内容について ( 該当項目全部を○で囲む)

①施設見学 ②実習指導者との顔合わせ ③実習計画書の確認 ④実習中の心構え ⑤実習プログラムの説明 ⑥出勤管理の説明 ⑦実習日誌の提出方法の説明 ⑧健康診断書・細菌検査書等の提出

⑨その他 ( )

4, あなたの実習の第I目標は (一つだけ選んで下さい)

①医療・保健・福祉の現状について知る。

( a, 精神疾患の理解, b 精神科病院あるいはデイケア施設の役割や機能 c, 社会復帰施設の役割や機能, 社会資源について

d, その他 ( )

②精神保健福祉士の業務について知る。

( a, 援助技術 b, チームアプローチや地域連携 c, 人権擁護等

d, その他 ( )

③当事者について知る ( 当事者 ・ 家族 )

( a, 患者会や家族会等の自助グループ b, 障害の受容 c, 生活者としての理解等)

④自分のことを知る

( a, 自己覚知 b, 自己の適性を知る

c, その他 ( )

⑤その他

( )

5, 実習指導者について

①実習の目的・内容に関する希望を確認してもらえましたか。

( はい ・ いいえ )

- ②その希望は取り入れてもらえましたか  
( はい ・いいえ )
- ③実習指導はありましたか  
( はい ・いいえ )  
ア、「はい」の場合、その頻度は  
( a, 毎日 b, 週に 回, c, 実習期間中 日)
- ④実習指導方式は  
( a, 面談 b, 実習日誌のコメント欄で c, その他 )
- ⑤実習指導者について  
( a, 全期間同じ精神保健福祉士 b, 当日のプログラム担当の精神保健福祉士 c, 精神保健福祉士以外の職種の職員 d, その他)  
ア、その他の場合 ( )
- ⑥指導における中心的な内容は何でしたか  
具体的に  
( )
- ⑦実習日誌の提出方法について  
( a, その日に提出 b, 翌日に提出 c, 数日まとめて  
d, その他 ( )
- ⑧実習日誌の1日分の記入時間は  
( a, 30分程度 b, 1時間程度 c, 1.5時間程度 d, 2時間程度 e, 2時間以上 )
6. 大学からの巡回指導について
- ⑨指導方法について ( a, 施設実習指導者との3者面談方式  
b, 大学担当教員との面談方式 c, その他)
- ⑩大学巡回教員について (a, 実習担当教員 b, ゼミ担当教員 c, その他 )  
ご意見がありましたら  
( )
7. 実習終了時点で、何に関心を持つようになりましたか。
- ①医療・保健・福祉の現状について知る。  
( a, 精神疾患の理解, b 精神科病院あるいはケア施設の役割や機能 c, 社会復帰施設の役割や機能, 社会資源について  
d, その他)  
「その他」の場合は、具体的に  
( )



「社会福祉援助技術現場実習」並びに「精神保健福祉援助実習」の実習教育の課題に関する比較研究

②保健福祉士の業務について知る。

( a, 援助技術 b, チームアプローチや地域連携 c, 人権擁護等

d, その他

d, その他の場合は, 具体的に。

( )

③当事者について知る ( 当事者 ・ 家族 )

( a, 患者会や家族会等の自助グループ b, 障害の受容 c, 生活者としての理解等 )

④分のことを知る

( a, 自己覚知 b, 自己の適性を知る

c, その他 ( )

① その他

8. 大学での実習事前指導等への要望がありましたら。

⑤精神保健福祉士の業務で最も重要なものは何だと感じましたか。

なるべく, 一言で書いて下さい。

( )

—ご協力有難うございました。—